

# シリーズ累計 80万部突破!



## 止まらない圧倒的中華幻想譚の勢い

集英社オレンジ文庫より発売中の『後宮の烏』シリーズがこのたび最新5巻の発売によって、シリーズ累計80万部を突破することがわかった。後宮の奥深くに暮らす特別な妃・烏妃の謎を巡る物語の展開に今後とも注目したい。

### 最新5巻で物語が大きく動く

12月18日に発売となった5巻では、若き皇帝・高峻と当代の烏妃・寿雪が運命に立ち向かう様子が注目される。

高峻は友である寿雪をその運命から救い出すために、「初代烏妃・香薷の過ちを正す」というもっとも険しい道を選択する。そして多くの家臣たちが反対の姿勢をとるなかで、寿雪の助け

となり得る人物を宮城に呼び寄せようと画策する。

同じ頃、烏妃への信仰が過熱して巻き起こった〈緇衣娘娘〉騒動の影響でしばらくの間外出を禁じられた寿雪は、人の寄り付かなくなった夜明宮で自身に突きつけられた切ない運命と対峙していた。

互いを特別な友として、出来ることはないか模索する二人。そしてその思いは、長すぎる時間の中でけして変わることのなかった歴史の流れをついに変える――。その先に待つのは光か、はたまた漆黒の闇か……。気になる展開は『後宮の烏 5』にて。

### 『後宮の烏』とは?

後宮の奥に暮らす特別な妃「烏妃」の謎を巡る中華幻想譚。作りこまれた世界観と美しい描写が話題を呼ぶ。

妃の位を与えられ後宮に暮らしながらも夜伽をせず、けして皇帝にひざまづくことのない存在・烏妃。

その姿は少女とも老婆とも言われ、不思議な術で失せ物さがしから呪殺までなんでも請け負ってくれるという。

そんな彼女のもとを時の皇帝がある依頼のために訪れる。この出会いが歴史の禁忌に触れるとも知らずに…。

試し読みはこちら

『後宮の烏』シリーズ特設サイト



特別な妃と若き皇帝が出逢う時、絶対的な宿命が覆る。

# 後宮の烏

白川紺子

好評発売中 装画/香魚子 本体600~620円+税



最新5巻  
発売中!

集英社オレンジ文庫

1~5

# 読者からも圧倒的的支持!

## シリーズを称賛する声の一部を紹介。複数の魅力が要因か

「たくさん読友さんたちが読んでたのでずっと気になってた一冊。やっぱり面白かった」(みさん)

「丁寧で、瑞々しくて、美しい物語だった。とにかく文章が上手い。上手すぎる」(もり/ほんぼんちゃん)

「シリーズ読み決定!! すごいおもしろかった」(ばんびさん)

「後宮の妃でありながら、夜伽をしない鳥妃。ハマらないわけがない!」(唯吹さん)

「ホラーとミステリーが程よく入っていてキャラクターも魅力的」(まみたまさん)

「引き込まれる世界観。息するのも忘れて読んでしまった」(honikotoさん)

「噂通りとても面白かった。最初は文体に疲れたけど、慣れてくると気にならず、逆にそれさえ面白く感じてきた」(エドガーさん)

「まささらな状態から登場人物の背景がどんどん深掘りされ、引き込まれる」(800さん)

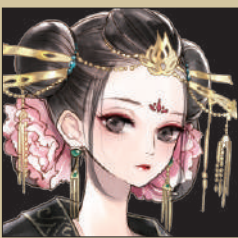
「この中国の雰囲気が多まりません! 表紙も綺麗だし、登場人物がとても魅力的です」(たなまいさん)

「寿雪の使う不思議な術と中華風な世界観があわさって、雰囲気満点なファンタジーでした!」(えりさん)

「面白かった。情景が目につかぶような美しい文章でした。寿雪ちゃんと高峻さんのやりとりが可愛い!」(はいねさん)

「妬み恨み魑魅魍魎渦巻く後宮で清く力強く生きる彼らの中華ファンタジー。続きが楽しみ!」(モルクさん)

### 個性あふれる登場人物



**柳 寿雪** (りゅうじゆせつ)  
夜明宮に暮らす当代の鳥妃。冷徹なように見えて情に厚く、甘いものに目がないという少女らしい一面もある。



**高峻** (こうしゅん)

廢太子から這い上がった即位間もない皇帝。



**衛青** (えいせい)

高峻に絶対的忠誠を誓い、傍に付き従う宦官。



**九九** (きゅうきゅう)

寿雪の侍女。素直で明るく、世話焼きな性格。



**星星** (しんしん)

鳥妃を選出するといわれる大きな金色の鶏。

「隠された歴史、鳥妃の正体、後宮の人々との関わり。続きも気になります!」(緑茶さん)

「幽鬼の悲しみや苦しみがゆっくりほどこけていく優しさ、鳥妃が操る力の美しい描写に惹きつけられる」(きい☆さん)

「設定が細かく、描写が繊細で情景が目につかび、一足飛びに引き込まれる」(こたもりさん)

「呪術で謎を紐解いていく、優しいファンタジーだと感じました」(瀬々さん)

「1話ごとに進んでいくお話が気になってグッと入り込むことが出来ました」(mimoさん)

「中華系の話は苦手な敬遠していたが、これは面白い。話にグイグイ引き込まれる」(まっきー☆さん)

「1冊の中にいろいろなことがギュッと詰まってる感じで、読み応えあります!」(withyukさん)

「ファンタジーながら、終始落ち着いた雰囲気ではほろ苦さを感じる。そこにほんの少しの優しさを見いだした感じ」(さなさん)

「面白かった! 1話ごとの終わりが優しい気持ちになれる」(水月さん)

「以前から気になってたシリーズ。もっと早く買ってあげれば良かったと思うくらいに、面白かった」(ひなたぼっこさん)

「面白く読めた。とても優しい大人向けのファンタジーかな」(チアモンさん)

扉絵別パターンのラフ

物語を彩る秘蔵画像を大公開!

後宮の鳥

白川紺子

Web掲載時に話題を呼んだ扉絵

「昼の場面でもなんとなく夜のイメージ。それも、暗闇といえども暖かく静かで落ち着く優しい夜のイメージ」(ルチルさん)

「自分にご褒美購入。ずっと気になっていた本。中3長男も読了。私も入り気に入ったようです」(おりがみさん)

「とってもはまりました! 世界観も雰囲気も好きです。寿雪と高峻が少しずつ心の中を解いていくのも、ウズウズします」(笑) (降るムーンさん)

「幽鬼が出てきたりと、普通の中華ファンタジーとは違うところがあって面白い」(えりこさん)

「すごく良かった。面白かった。人気の理由が分かりました。精緻な世界観にあつという間に引き込まれました」(なつこさん)

「一つの相談事は短編で終わるので読みやすかったです。鳥妃のことが分かるにつれて好感度が増す」(りんごもちゃん)

「ソク読みでした! 後宮ものの良さがわかった気がします! これは続きも絶対読む!! ってか早く読みたい!!」(はづきさん)

— 読書メーターより —

ためし読みを漫画で

原作/白川紺子 漫画/香魚子

後宮で生きながら けして帝のお渡りのない妃

「鳥妃」と呼ばれる 妃が住んでいる

「大家」

ほんとうに鳥妃をお訪ねになるのですか

「そのために来ています」

しかし...

妃に会えば 災厄があるとも

細かいことは あとでよろう

はたまた 幽鬼なのか

わかるというものだ

「会えば鳥妃が 女仙なのか」

「あなたか」

「柳鳥妃か?」

「呪殺なら 命を 祈禱ならば 財産」

「失せ物さがしは 応相談」

物語の導入部を漫画でためし読みできると話題に。特設サイトで閲覧可能。